

「読書週間」の変遷 —1923年から1960年に着目して—

吉澤 暁人

現代の日本では、「読書」を推進するための活動や政策が積極的に実施されている。「読書週間」は、1924年に開始された全国的な読書推進活動の一つであり、現在まで活動が継続されている。しかし、「読書週間」について網羅的に記述した資料はほとんど存在せず、資料によって「読書週間」に関する記述内容について不一致が見られる。

本研究では、1923年から1960年の「読書週間」の変遷を明らかにすることを目的とした。研究課題は、(1)「読書週間」の歴史について図書館関係組織の一次資料を用いて明らかにする、(2)「読書週間」の実態について図書館関係者の記録や意見文を用いて明らかにする、(3)「読書週間」の戦前・戦後の展開について上記2点の研究成果に基づいて明らかにする、の3点とした。研究対象は、「読書週間」と前身活動である「図書館週間」を中心に、全国的な読書活動普及のための行事活動全般とした。研究方法は文献調査を用いた。

辞書や事典を対象とした「読書週間」に関連する項目の調査からは、「図書館週間」についての記述の有無や、関連行事との関係性、行事の開始年や終了年について、記述の不一致が見られ、記述の内容が完全に一致しているものはないことが明らかとなった。

『図書館雑誌』に掲載された「図書館週間」に関する記事の調査からは、1923年に日本図書館協会の創立30周年にあたり「日本全国図書館デー」が計画されたことが起源であり、翌年には全国での「図書館週間」の開催が実現すること、一方で出版業者との協働を理由に「読書週間」の名称が使用される事例が存在したことなど、第二次世界大戦以前の「図書館週間」の動きが明らかとなった。

『図書館雑誌』に掲載された「読書週間」に関する記事の調査からは、1947年から開催された「読書週間」は日本図書館協会と日本出版協会の共同主催であるため、日本図書館協会の機関誌である『図書館雑誌』における記述量は「図書館週間」と比較して格段に少なく、行事の実施報告が行われていない年が存在することが明らかとなった。

1959年の『図書館雑誌』53巻10号の特集「読書週間の反省」の調査から、毎年同じ行事が繰り返されることへの危機感や図書館利用の宣伝の不十分さに対する反省など、当時の出版関係者や図書館関係者による「読書週間」に対する問題意識が明らかになった。こうした議論を経て、時限的な活動であった読書週間実行委員会は、一年を通して読書を普及する運動を行っていくことを目的とした読書推進運動協議会へと発展していくことになった。

本研究を通して、1923年から1960年にかけての「読書週間」の変遷が解明された。今後、調査対象を広げて『図書館雑誌』以外の図書館関係資料や、東京以外の地域における行事について調査することにより、全国的な「読書週間」の変遷を明らかにすることが可能である。

(指導教員 吉田 右子)